

学校教育目標	自ら学び 心豊かに たくましく生きる 児童の育成
目指す学校像	子どもたちが「思い描く幸せ」の実現を目指し、教職員、保護者、地域の Well-being を実現する学校
重点目標	1 学ぶ楽しさが実感できる「本気で学ぶ」授業を創造する 2 児童一人ひとりのよさを生かし、「自己実現を図る力」をはぐくむ 3 「地域とともにある学校づくり」を推進し、未来社会を切り拓く 4 安全、清潔、静謐な教育環境と職場環境を創出する 5 「喜んで出勤、満足して退勤」する教職員、学校づくりを強力に推進する

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	●子どもを主語にした教育活動の展開 ・本校の子どもたちの学習の様子からは、与えられた課題について非常に熱心に取り組むことができるが、その一方、自ら問いを立て試行錯誤しながら解決していくということ、アウトプット(書く・話す)することでは課題が見られる。 ・従来の「教師が教える」スタイルから「子どもが自ら学ぶ」スタイルに、教職員のマインドセットを切り替えていくことが必要である。 ・基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力・学習意欲に関して個人差が大きく、児童の端末が iPad に入れ替えともなるため、新しい端末における操作方法や ICT の有効的な活用方法を習得しながら、個に応じた指導・支援を行っていく。	・子どもを主語にした「本気の学び」の実現 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	①各学級において、「問い」を大切に、アウトプットの指導を充実させ、主体的に学びに向かう学習活動を展開するとともに、授業を参観しやすい環境を構築する。 ②子どもたちが自らの学びを、日常生活や将来に生かすことのできる授業を創造する。	・一人ひとりの教職員が年間1回以上の授業公開に主体的に取り組み、授業改善の意識を高めることができたか。 ・振り返りの場面において、子どもたちが自らの学びを日常生活や将来につなげる記述が見られたか。			
2	●「喜んで登校し満足して下校」できる学級・学校の実現 ・教職員は一人ひとりの子どもたちに真摯に向き合い、個に応じた指導・支援を行っている。 ・昨年度、長期欠席の児童が多く見られた。また、欠席の事由が「病欠」となっているも、その背景を探ると様々な理由が複合的に関連しているケースも多い。専門職の活用及び外部機関との連携、子どもたちのレジリエンスをはぐくむ活動の充実が急務の課題とし、生徒指導対応において子どもたちの心理的安全性の確保ができる指導過程をさらに取る。 ・学校が子どもたちを「ひきつける」努力、家庭が子どもたちを「送り出す」取組に加え、「不登校の未然防止」を重点的な課題とする。	・一人ひとりに寄り添った教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・長期欠席児童への早期対応及び外部機関との連携強化	①発達支持的生徒指導を組織的に強力に推進する。 ②スクールダッシュボードのデータの活用方法を研究し、校内委員会の実施により児童の状況を的確に把握し迅速に対応する。 ③Sola るーむやオンラインによる学習など、児童の状況に応じた効果的な学びの場を設定する。	・学校評価(児童)における満足度に係る項目の肯定的回答の割合が増加しているか。 ・Sola るーむの運用体制を確立し、状況に応じた多様な学びの場を設定することができたか。			
3	●学校運営協議会、PTAと一校岩となった学校経営の実現 ・学校安心メールや文書配信用のアプリケーションなどを活用して、家庭や地域に向けての情報発信を積極的に行うことができています。 ・学校・家庭・地域とが一枚岩となって子どもたちの教育活動を展開できるように、目指す学校像について「喜んで登校、満足して下校」というキャッチフレーズを設定した。 ・同ブロックの保幼小機関とは、顔の見える連携までには至っていない。 ・地域の強力なバックアップを基に、「地域とともにある学校づくり」に向けて、地域の人材、物的資源を有効に活用する必要がある。	・地域や関係諸機関との連携した教育活動の実施 ・「郷土に対する誇りと愛情」をはぐくむ教育の推進	①家庭、地域に向けて、的確で迅速な安心メールの配信や担当を決めて取り組むWEBページの更新による情報発信を行う。 ②地域行事に積極的な参加や授業見学や研修を通して交流し、家庭・地域・保幼小機関と顔の見える関係を構築する。	・学校評価における「学校は家庭との連絡・連携を適切に行っているか」の肯定的回答の割合が増加しているか。 ・家庭、地域、関係園の職員等と顔の見える関係が構築できたか。			
4	●安全、清潔、静謐な教育環境の創出 ・子どもたちが落ち着いて学習に取り組める環境が整ってきた。 ・清掃活動について、「何のために行うのか」という意義を踏まえて、清掃部を中心にこれまでの取り組み方を見直し新しい清掃活動を考えることができた。今後、見直した新しい清掃活動の定着を図ることが課題である。 ・「数字」を通して教育活動の成果を点検するという意識は高まっているが、実際の点検・活用までは至っていない。	・安全・安心で落ち着いた教育環境整備の実現 ・「数字」を通じた教育活動の成果についての点検実施	①整備された空間を維持するための新しい清掃活動の在り方を見直し、定着を図る。 ②教育環境の整備と教材の充実のために、全職員による備品の点検・整理を行う。	・学校評価(保護者)における「学習環境を整え美しい環境づくりに取り組んでいる」の肯定的回答の割合が増加しているか。 ・備品の点検・整備作業を通して、環境が整備された状況を実現できたか。			
5	●「喜んで出勤し、満足して退勤」する教職員組織の確立 ・昨年度の教職員の意識調査において、仕事に対してやりがいを感じている教職員が100%という結果が得られた。その一方、月の時間外在校等時間が4.5時間を超える教職員も多く見られた。 ・今後は、「働き甲斐」と「働きやすさ」の両面から、学校の様々な教育活動をその本質を捉えながら見直していく必要がある。 ・新採用教職員が5名着任するなど、職員の平均年齢が徐々に下がってきている。その中で、一人ひとりの教職員の資質・能力の向上を図ることは急務の課題である。	・本質を踏まえて行動し、自走する組織の構築 ・「人を育てる」学校経営の推進	①「本質を踏まえた教育活動となっているか」という視点で、教育実践や業務遂行計画を見直す。 ②「働きやすさ」と「働き甲斐」をセットにした働き方改革を推進する。 ③当事者意識をもって質的な働き方改革を進め、定時退勤日を設定して時間外在校等時間を縮減する。	・学校行事等について、単純に前年踏襲するのではなく、本質を踏まえた見直し・改善が図られているか。 ・「さいたま市教職員等の勤務に関する意識調査」「さいたま市教職員ストレスチェック」において、現状維持以上の結果とすることができたか。			

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組